
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所

NO.14 (2012年12月1日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

藤田佐和子

仙台には、全国紙のほかに地方紙として「河北新報社」という新聞社があり、東北一円を網羅してニュースを伝えています。先日は、11月27日付でNPO法人介護者サポートネットワークセンター「アラジン」が取り組んでいる、“ケアラーのためのバー”が写真入りで紹介され、牧野さんや何度かお会いしたことのあるスタッフの姿が写っていました。

“コミュニティ・カフェ”と聞いていたのに、小見出しは「専用バー誕生」となっていたので???でしたが、写真をよく見ると「ケアラースカフェ&ダイニング」となっていました。カフェだけでなく、お酒を飲み交わしながらおしゃべりする場所というのを強調したかったのでしょうか。皆さん、それぞれの地域で必要だと思われるサービスを産み出して活動しているのですね。頼もしいかぎりです。



《県内の復興状況について》

さて、最近の河北新報を読んでいると、ようやく復興という文字が現実味を帯びてきて各市町村の復興に向けた取り組みが具体的に掲載されるようになってきました。

たとえば28日、「山元町の復興公営住宅26戸が県内のトップを切り工事に着手」。石巻市では「復興公営住宅整備で導入した民間施設借上げ制度を利用した業者の地鎮祭が行われた」という記事。29日、東松島市の調査結果によると「集団移転による自力再建が32.8%、個別再建が30.6%、復興公営住宅が26.6%、現地再建が10%」だとか…。これを踏まえて集団移転計画や建築戸数を確定するようです。同日、仙台市内では防災集団移転で初となる荒井地区の宅地申込みが締め切られ、希望者が重複しなかった19世帯の移転先が内定しました。

私たちが通っているプレハブ仮設内でも動きがあり、退去後の空いた部屋に、民間借上げ住宅に住んでいた人達が入居してくるという話もあります…。今さらなぜ？と思われるかもしれませんが、復興公営住宅の入居優先順位は、障がい者、1人暮らしの高齢者、プレハブ仮設に入居している人となっていますので、一日でも早く復興公営住宅に入りたいという思いの現れでしょうか？それとも行政の経費削減でしょうか？

プチ講座「仙台市の復興の現状について」

11月13日（火）、扇町1丁目公園仮設内で、「仙台市の復興の現状について」というテーマでプチ講座を行いました。これは、私たちと連携して活動している「仙台傾聴の会」から、住民が今後のことについて不安を抱いているようだという報告を受け、仙台市の市民協働推進課に相談したところ、生活再建支援室を紹介して頂き、出前講座として実現したものです。



仙台市内の仮設で、唯一自治会が誕生しなかった扇町1丁目の人々にとっては、自治会としての支援がないため、集会所のトイレトーパーを買うのも住民からの寄付に頼らざるをえず、行政から忘れ去られたような気がしていたようです。そのような時、仙台市から出前講座に来てくださるということで、かなり期待感が強く、仙台市と書かれた車が

到着し、職員が集会所に入って来た時には、拍手が沸き起こりました。

復興支援事業は、2m以上の津波が来ると予想される**災害危険区域**と、**危険区域外**であっても浸水が予想される二つの地域に分けて、住まいを確保するための助成制度を提案しています。災害危険区域は防災集団移転促進事業として国の補助制度や仙台市の独自支援制度を利用することが出来ますし、一方、移転対象地区外の人でも自力で自宅を建設する際には同じような助成制度があるようです。

21名の住民が参加しましたが、その約8割が復興公営住宅を希望しており、仙台市が直接整備する地区と、民間事業者が建設したものを買い取る公募買取対象地区があるということを知りました。入居は早い地区では24年の秋頃、遅い地区では26年の終わり頃という話ですので、仮設住まいはまだまだ続くようですが、皆一様に、入居募集等の案内は必ず通知するという話を聞き、ひと安心したように笑顔になりました。

2012年11月下旬 石巻レポート

古賀久恵

半年前に石巻を訪問した時に感じたこと：

石巻の商店街には、009などヒーローのキャラクターモニュメントが所々に立っていました。被災しているお店と、その前からのシャッター通りが混在していると思われる、少々寂しくなっている街を漫画のヒーローたちが守っているかのようでした。

11月下旬の石巻：

その後も何度か打ち合わせで石巻には行っていますが、いつも駅から目的地までの往復、車での移動でした。今回は、少し時間があつたので街を歩いてみました。いつも車で通る大通りは被災した建物などは撤去されて空地になっているので、初めて石巻の街を見た人には被災とは無縁の寂れた旧商店街だと思われるかもしれません。それだけ片付いているのです。

駅から石ノ森漫画館を目指して歩きました。石ノ森漫画館は震災で大きな被害を受けた建物です。中洲に建っているため1階は完全に浸水したそうですが、建物自体は持ちこたえたそうです。2012年11月17日に再オープンしたというニュースを聞いていたので、訪問してみました。(かつて漫画少女だったわけではありません)

石ノ森漫画館までは徒歩で15分程度でした。大通りから目指す中洲までは裏道も通ります。路地に入ると震災から1年8か月が過ぎているのに、被災した建物がそのまま残っていました。津波の脅威を示す建物の近くに、キャラクターが立って道案内をしているかのようで心強かったです。目指す漫画館は目の前に見えていますが、道路が工事中で通れません。土日は工事を中断して歩道にしているのだけど、平日は通れないとのこと、遠回りでしたが、辿り着きました。館内は閑散としていました。せっかくオープンしたのになぁと残念に思って、スタッフの方と少しお話をしました。

- 平日の来場者は少ないけれど土日は平均1000人の来場者がある。震災前とほぼ同じくらいの数。
- 漫画館入口正面に設置されていた仮面ライダー海斗と館内の受付に設置されていたロボ

コンの一部が津波被害にあった。

・震災前に作られたマンガロードにはアニメのキャラクターモニュメントが11体あった。そのキャラクターたちは、3メートルの津波と津波で流されてきた数々の障害物にも耐え、1体も流されなかった。変身ポーズをとる仮面ライダーやニコニコしているロボコンなど、瓦礫の中で平時と変わらないキャラクターたちの姿は街の方たちを癒してくれた。



このモニュメント
の強度はすごい
ですね

『がんばれ！！ロボコン』
(テレビ番組名)のロボコン
2011年4月頃の写真

以前、宮崎文化本舗（NPO）を訪問した際に、宮崎文化本舗さんが「仮面ライダー展」を実施していました。初代からのコスチュームやバイクなどがズラリと並び、第1回目のTVが上映されたりと大がかりなイベントでした。企画意図は、口蹄疫後、宮崎の人たちを元気にしたいということでした。「なぜ仮面ライダーなのか」と聞いてみたところ、仮面ライダーは、3世代4世代が一緒に楽しめるものだからと。確かに1970年代には多くの子どもが仮面ライダーを見て、仮面ライダーごっこをしています。その後、今何代目なのかわかりませんが、祖父母世代から孫世代まで共通の話題で楽しめるものなのかもしれません。石巻の漫画館の賑わいは世代を超えた「場」の復活なのかもしれません。

今回の石巻視察では、石巻再生に尽力している地元の若い世代と知り合いました。その方々と協働して「市民協・いしのまきハウス」も世代間交流の場として活用されるようにしていきたいと思いました。

「市民協・いしのまきハウス」がオープンしたことは前号で紹介しましたが、そこを管理・運営している「NPO法人まちの寄り合い所・うめばたけ」が、月2回のコミュニティ・カフェを開催するなど、活発な活動をしています。

ぜひHPをご覧ください。

<http://umebatake.org/>

卓上ミニクリスマス飾りを作成中



河北新報で紹介されたコミュニティ・カフェいろいろ

《コミュニティ・ショップ「セカンドハンド仙台」》

仙台市若林区の河原町商店街に、9月中旬、被災者の雇用創出と居場所づくりを目指して、高松市の公益社団法人「セカンドハンド」がコミュニティ・ショップを開設しました。広さは35平方メートル、食器や衣類、雑貨がところ狭しと並べられ、フェアトレード商品も扱っているとか。スタッフ8人中の3人は仮設住宅で暮らす人を雇用。店の一角にお茶飲みスペースを設け、1年かけて経営を軌道にのせ、地域交流の拠点にしていく予定だそうです。

《「仙台・柳生サロン」を名取市が開設》

11月12日、仙台市内の民間借上げ住宅（みなし仮設）に住む、名取市民約100世帯を対象とした被災者交流の場（サロン）を、名取市が開設しました。元喫茶店だった空き店舗約64平方メートルを市が借上げ、委託した支援員が常駐します。被災して点在する市民同士をつなぎ、新たなコミュニティをつくる場として、料理教室や手芸教室、子育てママ講座、健康相談、ストレッチ体操などの活動を行う予定だそうです。

《「カフェ地球村」が山元町にオープン》

11月15日、震災で被災した山元町の障がい者支援事業所「工房地球村」が敷地内に“コミュニティ・カフェ”をオープン。約100平方メートルのトレーラーハウスを改造し、調理場のほかカウンター、テーブルの計15席を設け、コーヒーや手づくりクッキーを味わえるようになっています。震災で縮小した収入源を確保したいという思いと、被災者が集う憩いの場にしたいという思いが全国に伝わり、実現したそうです。

【11月パラスール喫茶実施報告】

日	月	火	水	木	金	土
				1 さくら会 JR南小泉	2	3
4	5	6	7 すみちゃんの家	8	9	10
			NALC・仙台港背後地6号公園 中野仮設	NALC・荒井小用地仮設		バスツアー
11	12	13 ぼすとらる 若松会	14	15 さくら会 卸町5丁目	16	17 ぼすとらる 七瀬中央公園仮設
						バスツアー
18	19 仙台傾聴の会 扇町1丁目公園	20	21 すみちゃんの家	22	23	24 男の台所 扇町1丁目公園
			NALC・福田町南&岡田西町	NALC・七ヶ浜第一スポーツ広場仮設		
25	26	27 ぼすとらる 扇町4丁目仮設	28	29	30	